(特非) 三番瀬環境市民センター

青潮対策を軸とした 三番瀬保全・再生プランづくりのための 調査·研究

ひろげる助成 5年目

調査研究

収集した生物の標本 80種

イベントの参加者 220人

80% 今年度計画の達成度

目標達成度 70%



苦労した点と工夫した点

■苦労した点

干潟の環境は厳しい。特に三番瀬は 1,700haと広大、真夏は水温が40℃ を超え、真冬は5℃を下回り、青潮も 発生する。観察会では、目視で生物が みつからないことがよくある。

■工夫した点

他所の観察会では気づかないゴカ イ、小さな甲殻類、微小貝、プランク トンなどを「干潟のモンスター」と名 付け、顕微鏡で観察する環境学習プ ログラムを実施した。

課題

東京湾奥の干潟・三番瀬が抱える、課題と再生の方向性を多くの 人と共有して、再生計画と利用ルールをつくり、1日も早く三番 瀬再生の取組みをスタートさせる。

モニタリング調査で正確かつ、検証可能なデータを得る。収集し たデータを基に、様々な手段で情報発信をして、多くの人と三番 瀬再生の取組みの重要性を共有する。

活動内容と成果

三番瀬海域の環境変化(特に無酸素水塊の生成と青潮発生につい て)を把握するために、水深の違う2地点で、年間4回ずつ、底生 生物と水質(特に溶存酸素)のモニタリング調査を実施した。調査 で得た知見を、科学的に、かつわかりやすく説明し、理解を深める ため、環境学習のプログラムを作り、小学生親子らに実施した。本 年度はその集大成として「三番瀬ワークショップまつり」を開催。 各地の自然史系博物館で活動するNPOの出展を得て、「三番瀬」 をテーマに自然の大切さを伝えるワークショップを実施した。





全助成期間の活動を振り返って

本事業で計画した、年間8回の底生生物の調査はすべて実施でき、 調査の担い手育成の目標も概ね達成した。さらに、漁業者や関係機 関との良好な関係も構築できた。また、調査等で得た情報をわかり やすく伝えるツールとして、干潟の環境学習プログラムを実施。 3年間の集大成として開催した「三番瀬ワークショップまつり」で は、自然史系博物館でワークショップを手がける団体が集結して、 三番瀬の魅力をさまざまな角度から発信した。

│活動地域│ 🚅 東京湾三番瀬

〒272-0111 千葉県市川市妙典6-10-28-303 電話:047-358-6233

E-mail: npo-sanbanze@outlook.jp http://www.sanbanze.com





今後の 展望

助成期間中に確立した三番瀬の基礎調査を続け、広く情報発信をするとともに、環境評価の指標として役立てたい。また、干潟な らではの体験を中心とした環境学習プログラムを実施することで、三番瀬の未来を支える次世代の人材育成につなげたい。これ らの活動を持続可能にするために、活動の拠点づくりを検討したい。